

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年3月10日 (2011.3.10)

【公開番号】特開2008-220941 (P2008-220941A)

【公開日】平成20年9月25日 (2008.9.25)

【年通号数】公開・登録公報2008-038

【出願番号】特願2008-30284 (P2008-30284)

【国際特許分類】

A 4 7 C 7/02 (2006.01)

B 6 0 N 2/06 (2006.01)

【F I】

A 4 7 C 7/02 A

B 6 0 N 2/06

【手続補正書】

【提出日】平成23年1月24日 (2011.1.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の構造体と、

第 2 の構造体と、

前記第 1 の構造体と前記第 2 の構造体の間に調整可能なように配置されたベアリングであって、1 の構造体と他の構造体の相対的な位置を移動させることを容易にするために、前記ベアリングは複数の滑りベアリングを含み、前記滑りベアリングのそれぞれは第 1 の構造体と滑るように係合するよう構成された外部ベアリング面と、第 2 の構造体の細長いフランジ状取付メンバーに滑るように係合するよう構成された内部凹部を持つ、ベアリングと、

前記ベアリングのベアリング面ではない面に係合するように配置され、前記第 1 と前記第 2 の構造体の相対的な位置を調整するために配置されたベアリング駆動装置と、

ベアリング位置の調整ができるように前記ベアリング駆動装置と協働する作動装置とを含む調整可能なベアリングシステム。

【請求項 2】

前記ベアリング駆動装置が第 1 と第 2 のレバーアームを持つ断面である細長いバーを含み、前記作動装置を操作することによって第 1 と第 2 のレバーアームが支点を中心に回転しこれによって前記ベアリングの位置を調整する、請求項 1 に記載の調整可能なベアリングシステム。

【請求項 3】

前記駆動バーが概ね L 字型の断面をしていて、L 字のそれぞれの脚が前記レバーアームの 1 となり、L 字の屈曲部が前記支点となる、請求項 2 に記載の調整可能なベアリングシステム。

【請求項 4】

前記第 2 のレバーアームが一对の指の形状の末端部を持ち、各指は前記ベアリングのベアリング面ではない面と係合する、請求項 2 に記載の調整可能なベアリングシステム。

【請求項 5】

前記第 2 の構造体の細長いフランジ状の取付メンバーが複数の開口部を持ち、前記ベア

リング駆動装置が複数の指を持つ細長いバーを含み、指のそれぞれは前記駆動バー上の前記開口部の１を通して伸び前記ベアリングの前記ベアリング面ではない面に係合する、請求項１に記載の調整可能なベアリングシステム。

【請求項６】

対向する側面通路を有する第１の座席サスペンション要素と、

対向する側面フランジを有し、前記側面フランジの１は複数の開口部を持つ、第２の座席サスペンション要素と、

前記第１の要素の側面通路と前記第２の要素の側面フランジの間に配置される複数の調整可能なベアリングであって、前記ベアリングのそれぞれは側面通路と滑るように係合するように構成される外部ベアリング面と、側面フランジと滑るように係合する内部凹部を持つ、複数の調整可能なベアリングと、

前記の１のフランジに隣接して前記第２の要素に取り付けられた細長いバーを含み、前記開口部を通して伸び少なくとも１の前記ベアリングのベアリング面ではない面に係合する複数の指を持つ、ベアリング駆動装置と、

作動装置であって、前記ベアリング駆動装置と協働し、前記作動装置を操作することによって前記第１の要素の側面通路と前記第２の要素の側面フランジの間の少なくとも１のベアリングに前記駆動装置の指に係合させ、そのベアリングを適切に位置づける、作動装置と

を含む、座席サスペンション要素の動きを容易にする調整可能なベアリングシステム。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００３】

本発明は米国特許番号第５，９３８，３４０号において公開された設計に対する改良に向けられる。本発明は、車両座席サスペンション前後位置付けアセンブリーまたは隔離アセンブリーの利用に理想的であって、容易にアクセス可能で利用方法が簡単な調整機構を持つ、調整可能ベアリングシステムを含む。本発明の調整可能ベアリングシステムは、第１の構造体と、第２の構造体と、前記第１の構造体と前記第２の構造体の間に調整可能な状態で置かれ１の構造体ともう一方の構造体の相対的な移動を容易にするベアリングを含む。ベアリング駆動装置は、ベアリングのベアリング面ではない面に係合し、前記第１と第２の構造体に対するベアリングの相対的な位置を調整するように、置かれ、作動装置がベアリング駆動装置と協働してベアリングの位置を調整できるようにする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

滑りベアリング２２の形態をとる１または複数のベアリングは、プレート１２とプレート１４の間に調整ができるように配置される。滑りベアリングのそれぞれは、例えば、ナイロン、アセタール、フッ素樹脂、または含油銅のような高潤滑性の素材から作られ、通路１６の内側と滑るように係合するような大きさと配置をとる外部ベアリング面２４を持つ。ベアリング２２のそれぞれは、フランジ１８の自由端に滑るよう受けるよう適合した内面または内部凹部２６と、背面またはベアリング面ではない面２７を持つ。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

好ましい実施態様のベアリングシステムは、細長いバー 3 0 の形状をとるベアリング駆動装置と、ネジ山を切られた鉸 3 2 の形状をとるように図示された作動装置を含む。ネジ山を切られた鉸 3 2 は、バー 3 0 上のネジ山を切られた開口部またはナット 3 3 と協働して働く。図 3 と図 4 に最もよく図示されているように、駆動バー 3 0 は概ね「L」字状の断面をしていて、「L」のそれぞれの足が、第 1 および第 2 のレバーアーム 3 6 と 3 8 となる。第 2 のレバーアーム 3 8 の自由端はフランジ 1 8 の側面の開口部 2 0 を通って延びる指 4 0 として終わる。「L」の屈曲部は支点 4 2 であって、ベアリング 1 8 の位置を調整した場合に、そこを中心にアーム 3 6 と 3 8 が回転してもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明の好ましい実施態様を使用する座席サスペンションが組み立てられたとき、プレート 1 2 と 1 4 は相対的な位置関係において自由にスライドすることが好ましいが、想定されない横方向の動きあるいは「遊び」は比較的少ない方が好ましい。この目的を実現するために、ネジ山の切られた鉸による作動装置 3 2 を操作するだけで、通路 1 6 とフランジ 1 8 両者に対するベアリング 2 2 の相対的な横方向の位置を調整することができる。図 3 および図 4 示すように、鉸 3 2 がバー 3 0 にネジ込まれれば、鉸の頭がレバーアーム 3 6 に作用して、支点 4 2 を中心にレバー 3 8 を回転させる。その結果、複数の指 4 0 はベアリング 2 2 の背面またはベアリング面ではない面 2 7 と係合して、フランジ 1 8 の自由端に沿って通路 1 6 の方向に横方向にベアリング 2 2 を動かす。この方法によって、ベアリング 2 2 の位置を簡単かつ最適に調整することができる。同じ方法で、座席装置を使用中に分解することなく、ベアリングのアセンブリーにおける位置を簡単に調整することができる。